

一般財団法人新潟県建設技術センター
研究助成報告書

令和4年3月

てらどまり若者会議～波音～

1. 活動の目的

寺泊地域はこれまで海のまちとして、港とともに発展してきた歴史がある。しかし近年は少子高齢化に伴う活力の低下、海に身近に触れ合う場所・機会の減少、佐渡定期航路の廃止等による交通・交流機能の低下など、海離れが顕著になっている。そこで地域住民が主体となり港の利活用を行うことで、地域のプライドを醸成し、官民連携で魅力あるまちづくりを推進していくことを目的に実施した。

2. 背景や必要性

■ 寺泊地域の課題

寺泊地域は、古くは北前船の寄港地として海上交通の要所となって発展し、また佐渡への流刑を待つ順徳天皇や日蓮聖人など数々の偉人が残した歴史深い地域である。バブル期の昭和 61 年 1 月 1 日には人口が 13,410 名^ⅰにもなり、魚の市場通りを中心に農林水産業や観光業でまちは賑わっていたが、近年では産業の衰退から年間 2～3 %の人口減少が続き、2022 年 2 月には寺泊地域の人口が 8,659 名^ⅱとなった。

寺泊港近郊での漁獲高は減少し、魚の市場通りの周辺を中心とした観光業も衰退の一途をたどり、2019 年には歴史的にも縁が深く 50 年余り続いてきた佐渡汽船赤泊定期航路の廃止が決定した。寺泊地域では、衰退の一途を止めるべく、まちづくり活動が行われている部分もあるが、これまでは長岡市合併以前の行政頼りのまちづくりが根強く、官民連携や住民が主体的となったまちづくりがなされていなかった。

■ 寺泊港の現状

寺泊は海の街として知られるが、地域住民、特に子ども達らの海離れが近年顕著になっている。要因として、寺泊地域内の海で安全に子ども達が遊べる場所は限られており、かつ町の中心部から離れていることが挙げられる。寺泊港は町の中央に立地し、港内には防波堤に囲まれた安全な水辺が存在するが、地域からの認知度は低く、放置ボートが多数置かれているモラルのない荒れた状況で、港湾を管理する行政機関にとっても悩みの種となっている。

事業該当エリアは以下の写真の現状となっていた。



3. 実施概要

① イベントの実施

当団体では地域住民が寺泊に愛着を持って今後も住み続けられるまちへとしていくために、水辺に関わる様々なイベントを実施した。その際に当団体のみではなく、地域内外の団体や学校とも連携してイベントを開催した。

(1) 長岡技術科学大学とてらどまり若者会議～波音～による海岸クリーンアップ大作戦

長岡技術科学大学の南口教授、勝身教授と協力し、海岸清掃と学びを掛け合わせたイベントを企画。当日は新型コロナウイルス感染症の拡大時期だったため、関係者のみで現地視察と海岸清掃に企画を変更して実施した。

日 時 2021 年 5 月 29 日 (土) 9:00 – 11:00
場 所 寺泊港
参加人数 6 人 (うちスタッフ 3 人)
協力団体 長岡技術科学大学 SDGs 推進室



(2) 離島へ上陸 キレイなプライベートビーチをつくろう

寺泊港の中にも陸続きになっておらず人が行くことはできない場所 (以下離島) があり、ここでは漂流したごみが溜まってしまう。そこを自分たちの遊び場として開発するために、クリーンアップ活動とマリンスポーツの体験や水生生物探索会を掛け合わせた企画を実施した。まずは離島に行くために協力団体の株式会社ホリエ様からサップ、カヌーの漕ぎ方、乗り方を指導していただいた。離島到着後のクリーンアップ活動では、普段私たちが活動していた場所とは違い、大きなごみやプラスチックごみが中心で流木は少なかった。クリーンアップ活動後は、マリンスポーツや水生生物探索会を実施。長岡市寺泊水族博物館からはエビ、魚、カニ、貝類などの十数種類の水生生物を。新潟海洋研究所 濱岡様からは、アマモを含めた藻類を解説していただいた。私たちが今まで発見することができなかった水生生物がいるなど、改めて寺泊港の可能性を見出すことができた。

日 時 2021 年 7 月 25 日 (日) 9:30 – 12:00
場 所 寺泊港 (株式会社寺泊マリーナ付近)
参加人数 31 人 (うちスタッフ 13 人)
協力団体 株式会社寺泊マリーナ、株式会社ホリエ、株式会社寺泊 BASE、
長岡市寺泊水族博物館、新潟海洋研究所 濱岡様



(3) 家族で海岸清掃×学び

寺泊地域の海水浴場の1つである郷本海水浴場で、団体では初めてとなる海岸清掃を行った。寺泊港付近と同様に流木がある一方、この地域にはプラスチックごみやマイクロプラスチックごみが散見され、下記の写真のように多くのごみを拾うことができた。長岡技術科学大学の教授からの出張授業では、海洋プラスチックごみの現状を知ったうえで、ごみを減らすための私たちのアクションを体験できた内容だったことで、海の豊かさを守るために今後私たちがとるべき行動を学ぶことができた。

また郷本海水浴場では、宿泊業を営んでいる民間業者（民宿あだち）が環境維持のために海岸清掃に取り組んでいるなど新たな発見があった。このように今まで連携することのなかった長岡技術科学大学や地域の民間業者と協議を重ねられたことで、今後の更なる活動の広がりをつくる連携体制ができた。

日 時 2021年10月8日（土）10:00 - 12:00

場 所 寺泊郷本海岸、長岡市青少年研修センター

参加人数 22人（うちスタッフ 4人）

協力団体 長岡技術科学大学 SDGs 推進室、民宿あだち



（４）アマモの生態と再生活動に関するオンラインセミナー

講師の新潟海洋研究所の濱岡秀樹氏より「寺泊のアマモ場とその造成について」のオンラインセミナーを開催。今後の研究対象のアマモの生態系の話や水質調査に際しての助言をいただいた。講演後は質疑応答を含め講師と参加メンバーとの交流やことで、より深い学びとなった。

また Zoom をレコーディングしたことで、当日参加できなかったメンバーにも情報共有をすることができた。

日 時 2022 年 2 月 3 日（木） 15:00 – 16:00

場 所 オンライン（Zoom）

参加人数 20 人（後日アーカイブ視聴含む）

講 師 新潟海洋研究所 濱岡秀樹氏

以下のイベントは新型コロナウイルス感染症の影響で中止もしくは延期となった

- 釣ってみて 捌いてみて 食してみねば 魚は分からじ

日 時	2021 年 8 月 26 日 (木)
場 所	寺泊港
参加人数	申込募集を開始する前に中止を決定
協力団体	寺泊漁業協同組合、長岡市寺泊水族博物館、 美味探求の宿 住吉屋
内 容	高校生、大学生を対象に海に親しんでもらえる港のクリーン活動+釣船体験会を企画。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大時期だったため、協力者と協議のうえ中止。



- SDGs を学ぶフェスティバル

日 時	2022 年 1 月下旬
場 所	寺泊文化センターはまなす
参加人数	申込募集を開始する前に中止を決定
協力団体	寺泊漁業協同組合、長岡技術科学大学、長岡市寺泊水族博物館
内 容	長岡技術科学大学の教授や長岡市寺泊水族博物館の学芸員を呼び、 海と SDGs にまつわるフォーラムを開催する予定だった。

② 水質調査

私たちが活動している寺泊港 4 か所の水質調査を実施。

結果は以下の通りとなり、今まで水生生物探索会を行ってきた水域は海水浴場と同等レベルの水質を保持していることが分かった。今後も同地域で水生生物探索会などの水辺の活動を推進していく上で安全性を担保できる結果となった。また、今後はこの水質をもとにアマモが生長できる水質調査の必要性も感じており、更なる調査を進めていきたいと考えている。



■ ポイント①の試験結果

採取場所及び試料名称	採取日	当日の様子
港フェリー乗り場側	2022 年 2 月 26 日 11:00	

試験項目	試験結果	試験方法
ふん便性大腸菌群数(個/100ml)	100	M-FC 法
COD (mg/l)	2.5	JIS K0102 17

■ ポイント②の試験結果

採取場所及び試料名称	採取日	当日の様子
港 会館側	2022 年 2 月 26 日 11:00	

試験項目	試験結果	試験方法
ふん便性大腸菌群数(個/100ml)	92	M-FC 法
COD (mg/l)	1.5	JIS K0102 17

■ ポイント③の試験結果

採取場所及び試料名称	採取日	当日の様子
マリーナ 下	2022 年 2 月 26 日 11:00	

試験項目	試験結果	試験方法
ふん便性大腸菌群数(個/100ml)	11	M-FC 法
COD (mg/l)	1.3	JIS K0102 17

■ ポイント④の試験結果

採取場所及び試料名称	採取日	当日の様子
水族館 下	2022 年 2 月 26 日 11:00	

試験項目	試験結果	試験方法
ふん便性大腸菌群数(個/100ml)	4	M-FC 法
COD (mg/l)	1.5	JIS K0102 17

③ 広報活動

(1) 団体活動 PR ポスターおよびチラシ

情報発信ツールを整備するために、今まで作成することのできなかった団体 PR ポスターとチラシを制作。地域内の公共施設、飲食店、その他協力者のもとへ設置したことで、団体 PR のためのポスターおよびチラシを提示。地域の人のみならず、地域外の公共施設の利用者ならびに地域外からの観光客への団体周知へとつながった。



【主な設置場所】

寺泊観光協会、寺泊コミュニティセンター、寺泊地域図書館、長岡市内図書館、長岡市寺泊支所、旅館2か所、文化センターはまなす

※ほかイベント開催時（他団体のイベント）に配布や掲示するなど有効活用した

(2) 波音通信制作

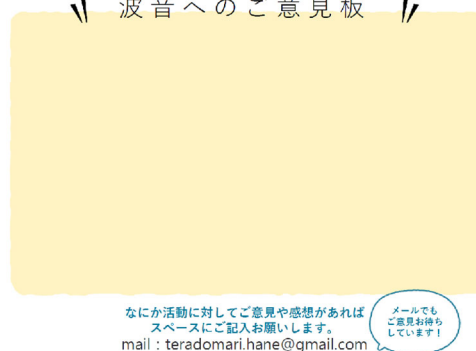
地域向けの広報手段にかわら版となる「波音通信」を制作。寺泊地域の町内会長に依頼し、約1,000戸に回覧板を活用して配布。読んだ方から反応をいただく為のコメント欄を設け、一部の町内からは後日回収できた。

■実際に寄せられた意見

- ・今まで何かやっていると聞いたことがあったが、このチラシをみて何となくやっているとわかった。地域のために頑張ってください。
- ・あなたたちのことをこの波音通信で初めて知った。
- ・これからも地域の子ども達のためになるようなことを企画してください。



波音へのご意見板



4. 事業効果

(1) 地域住民の交流促進、地域資源の再発見

水生生物探索会や浅瀬でも楽しく体験できるカヌー、サップの体験を通じて、海で遊ぶ楽しみを見出すことができた。また、それらが全て用意された場所でイベントに参加するだけでなく、自分たちで清掃活動を行うことでより愛着をもってその場所を使うことができるような取り組みとなった。本年度イベントを行うに際しての必要備品をそろえることができたので、今後も自分事に考えることができる本事業を継続し、多くの人に寺泊の海を楽しんでもらうことで愛着が生まれるような機会を創出していく。

本事業では、当団体や他の地域団体も利用することがなかった寺泊港内の場所で体験アクティビティを実施した。地域住民にも認知度の低かったエリアの一部を有効活用したことで、寺泊港以外にも同様に存在する認知度の低い地域資源の掘り起こしに対しても広域的な波及効果を与えていきたい。そのためにも引き続き地域の魅力が伝わるような情報を地域内外に発信し

ていく。

（２）SDGs の目標達成

世界の目標で自分とは関係ないと思われるかもしれない SDGs。私たちのような市民団体は目標を達成するために様々な取り組みをしているというより、活動することで自然と SDGs の達成に寄与しているというのがわかり、SDGs の啓発にもつなげている。例えば、私たちの取り組みを知った行政関係機関から令和３年度に SDGs の取り組みの事業発表を行う機会をいただくなど、私たちだからこそできる SDGs のつながりを今後も継続して実施していく。

（３）子供達の環境教育の促進

当事業を地域の子供達にも一緒に体験や関わって創り上げていくことで、海の街寺泊に住む子供達の海洋環境や自然保護に関する意識を高めていく環境教育を学校とも連携し促進できている。当団体の本年度の活動が評価され、令和４年度からは長岡市コミュニティスクールの委員として寺泊小学校と密に関わることができる土壌ができた。今後も本事業や他の活動を通じて、地域の子ども達が少しでも寺泊に愛着をもってもらえるような活動を継続させていく。

５．今後の取り組み

（１）アマモの繁殖活動

本年の事業を通じて、改めて寺泊港の可能性を再認識することができた。そこで今後も私たちの手で海の豊かさを守るために、アマモの繁殖活動に取り組む。昔からアマモ場は海の生き物の「ゆりかご」と呼ばれ、沿岸域で高い生産力を有する場所として注目されてきました。人は、魚や貝を採ったり、アマモ場と関わり、楽しみ、そしてたくさんのめぐみを受けてきました。そこで官民連携で寺泊港にアマモを繁殖させ、多くの水生生物が住みやすい環境にしておくことで、より魅力的な寺泊の海を創り上げていく。

（２）寺泊水生生物図鑑の作成

当団体でも寺泊港の様々なエリアで水生生物探索会を実施してきたが、寺泊水族博物館や寺泊総合型スポーツクラブでらスポ！でも寺泊水族博物館裏の浅瀬で探索会を実施していた。寺泊水族博物館で課題となっていたのが、寺泊港にいる生物はわかっていても、それをまとめて多くの人に伝えることができていないという話だった。そこでより多くの人（特に子どもたち）へ情報を届ける手段として、寺泊水生生物図鑑や下敷きを制作していく。図鑑で見た多様な生物を自分の手で探す。そのような取り組みを通じて海の楽しみ方を模索していく。

ⁱ 広報てらどまり 1986 年 2 月号

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/elibrary/kouhou/teradomari/file/s6102.pdf>

ⁱⁱ 長岡市住民基本台帳地域別人口・世帯数（令和４年２月１日現在）

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/syukai/jinkou/jinkou.html>